私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
エコアクション21
認証番号0011296

マテリアルバンク株式会社
2022 年度 環境経営レポート

（対象期間：2022年 5月～2023年 4月）

発行日： 2023年7月12日
改訂日： 2023年8月21日

環 境 理 念

未来へ続く持続性のある循環型社会の実現に向けて、経営における課題とチャンスを定期的に明確にし、事業活動全般における環境負荷を可能な限り低減し、地球温暖化対策や地域の環境保全活動にも自主的・積極的に取り組み、継続的改善を図ります。

環 境 経 営 方 針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 環境に配慮した廃棄物の収集運搬および処分に取り組みます。
3. 省エネルギー化を推進して温室効果ガスの排出量削減に努めます。
4. 事務所の事業系一般廃棄物の削減に取り組みます。
5. 受託した廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率の向上を図ります。
6. 水道の水使用量の削減に取り組みます。
7. グリーン購入に取り組みます。（カーボンオフセットへの取り組みも含む）
8. 周辺地域に配慮した事業活動を行い、クレームゼロを目指します。
9. 地域の清掃活動を行います。イベント活動などにも積極的に参加して地域貢献いたします。
10. この環境経営方針を全従業員に教育・訓練により周知徹底させ、社外にも公開します。

制定日： 2015年9月29日
改定日： 2023年8月1日

マテリアルバンク株式会社
代表取締役社長　矢吹 啓

❐組織の概要

（１）名称及び代表者名

マテリアルバンク株式会社
代表取締役社長　矢吹　　啓

（２）所在地

本　　社	〒701-0165	岡山県岡山市北区大内田1310番地
GREEN BASE(中間処理場)	〒710-0034	岡山県倉敷市粒江字山ノ奥1885番2、字横谷1886番3
岡山積替保管場所	〒701-0165	岡山県岡山市北区大内田字三谷1317番1外3筆
倉敷積替保管場所	〒711-0937	岡山県倉敷市児島稗田町字奥3547番、3548番

（３）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者	常務取締役	矢吹　匡	TEL：086-250-0071
担当者	業務部/GREEN BASE　統括部長	河合　博行	TEL：086-250-0071

（４）事業内容

産業廃棄物収集運搬業
産業廃棄物中間処理業
一般廃棄物の処分業（中間処理）
一般廃棄物の収集運搬業
再資源化物販売
古物商

（５）法人設立年月日

昭和50年5月1日

（６）資本金

4500万円

（７）事業の規模　（2022年度実績）

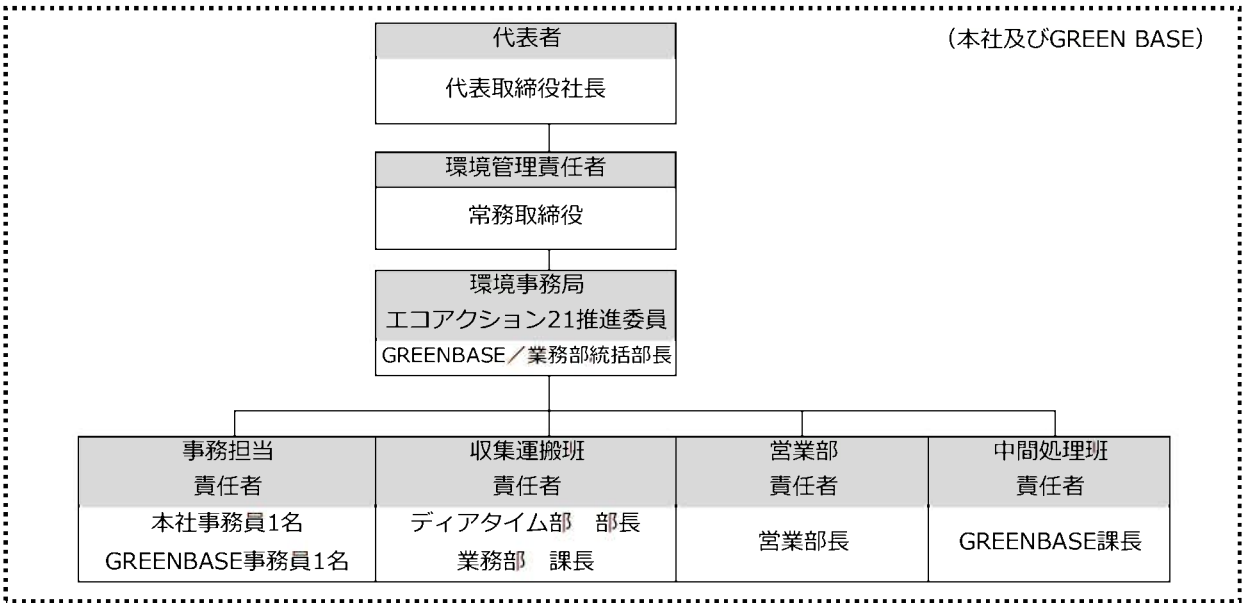
売上高　606百万円
廃棄物の取扱量　21,103ｔ
（内訳）
産業廃棄物処分量　19,928ｔ
一般廃棄物（木くず）処分量　815ｔ
一般廃棄物（受託分）処理量　360ｔ

	処理量	GREEN BASE	岡山積替保管場	倉敷積替保管場	合計
従業員	28名	26名	-	-	54名
敷地面積（㎡）	843㎡	5349㎡	1070㎡	1076㎡	8338㎡
延べ床面積（㎡）	112㎡	74㎡			186㎡

（８）事業年度

5月～翌年4月

（９）組織図



（１０）役割・責任・権限表

代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・実施体制の構築（環境管理責任者を任命） ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示の実施 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
ＥＡ２１推進委員	・環境経営計画の審議 ・環境経営活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

（１１）許可の内容

■一般廃棄物処理業許可

【岡山市】

許可番号	第4096号
許可の年月日	令和4年4月1日
許可の有効期限	令和6年3月31日
許可の種類	一般廃棄物の収集運搬（積替施設　有　保管の高さ1.3m）
許可区域	岡山市

【倉敷市】

許可番号	第124号
許可の年月日	令和5年4月1日
許可の有効期限	令和7年2月28日
許可の種類	一般廃棄物の収集運搬（積替施設　有　保管の高さ1.3m）
許可区域	倉敷市

■一般廃棄物（木くず）処分業許可

許可番号	第7号
許可の年月日	令和3年10月10日
許可の有効期限	令和5年10月9日
許可対象事業	一般廃棄物処分業（破砕）
取扱う一般廃棄物の種類	木くず

■産業廃棄物処分業許可

許可番号	第10020016043号
許可の年月日	令和5年1月4日
許可の有効期限	令和9年12月23日
事業計画の内容	主として、岡山県内より産業廃棄物を受入れして中間処理を行い、廃棄物の再資源化と減容を行う。
事業の範囲	処分業（中間処理）
事業の区分	中間処理（選別・破砕・切断）
処理施設の種類	選別・破砕・切断施設
処理する廃棄物の種類	（11）の産業廃棄物中間処理施設　参照
処理能力	（11）の産業廃棄物中間処理施設　参照

■産業廃棄物収集運搬業許可

許可自治体		岡山県	岡山市	広島県	兵庫県	香川県	愛媛県	鳥取県
許可番号		第03303016043号	第08310016043号	第03400016043号	第02806016043号	第03709016043号	第3805016043号	第03104016043号
許可年月日		平成31年4月16日	平成31年4月8日	令和1年12月16日	令和4年5月10日	令和4年11月10日	令和1年7月13日	令和3年1月25日
有効期限		令和6年3月15日	令和6年3月15日	令和6年12月15日	令和9年5月9日	令和9年10月21日	令和6年7月12日	令和8年1月24日
積替保管		無	有	無	無	無	無	無
保管上限及び高さ			502.7㎡/2.5m					
許可品目	汚泥	●	●	●	●	●	●	●
	燃え殻							
	廃油	●	●	●	●	●	●	●
	廃酸	●	●	●	●	●	●	●
	廃アルカリ	●	●	●	●	●	●	●
	廃プラ類	●	●	●	●	●	●	●
	紙くず	●	●	●	●	●	●	●
	木くず	●	●	●	●	●	●	●
	繊維くず	●	●	●	●	●	●	●
	動植物性残さ	●	●					●
	ゴムくず	●	●	●	●	●	●	●
	金属くず	●	●	●	●	●	●	●
	ガラス・陶磁器くず	●	●	●	●	●	●	●
	がれき類	●	●	●	●	●	●	●

（１２）施設等の状況

■産業廃棄物収集運搬用車両

車　種	仕　様	台　数
11t～10ｔ 深ダンプ車	ロングタイプ 深ダンプ（容積　36㎥～31㎥）	2
6t アームロールヒアブ車	コンテナ脱着装置付　コンテナダンプ（容積　8・10・13㎥） グラップル（掴み）付	1
5t アームロール車	コンテナ脱着装置付　コンテナダンプ（容積　8・10・13㎥）	1
3t アームロール車	コンテナ脱着装置付　コンテナダンプ（容積　8・10・13㎥）	1
4t ユニック車	積載型クレーン付	8
4tロング ユニック車	積載型クレーン付	1
3t アームロールユニック車	積載型クレーン付 コンテナ脱着装置付　コンテナダンプ（容積　4㎥）	1
2t ユニックパワーゲート車	積載型クレーン付 ショートボディ　パワーゲート付	1
2t アームロール車	コンテナ脱着装置付　コンテナダンプ（容積　4㎥）	1
2t アルミパワーゲートバン	容量18㎥	1
軽トラック		2
軽バン		1

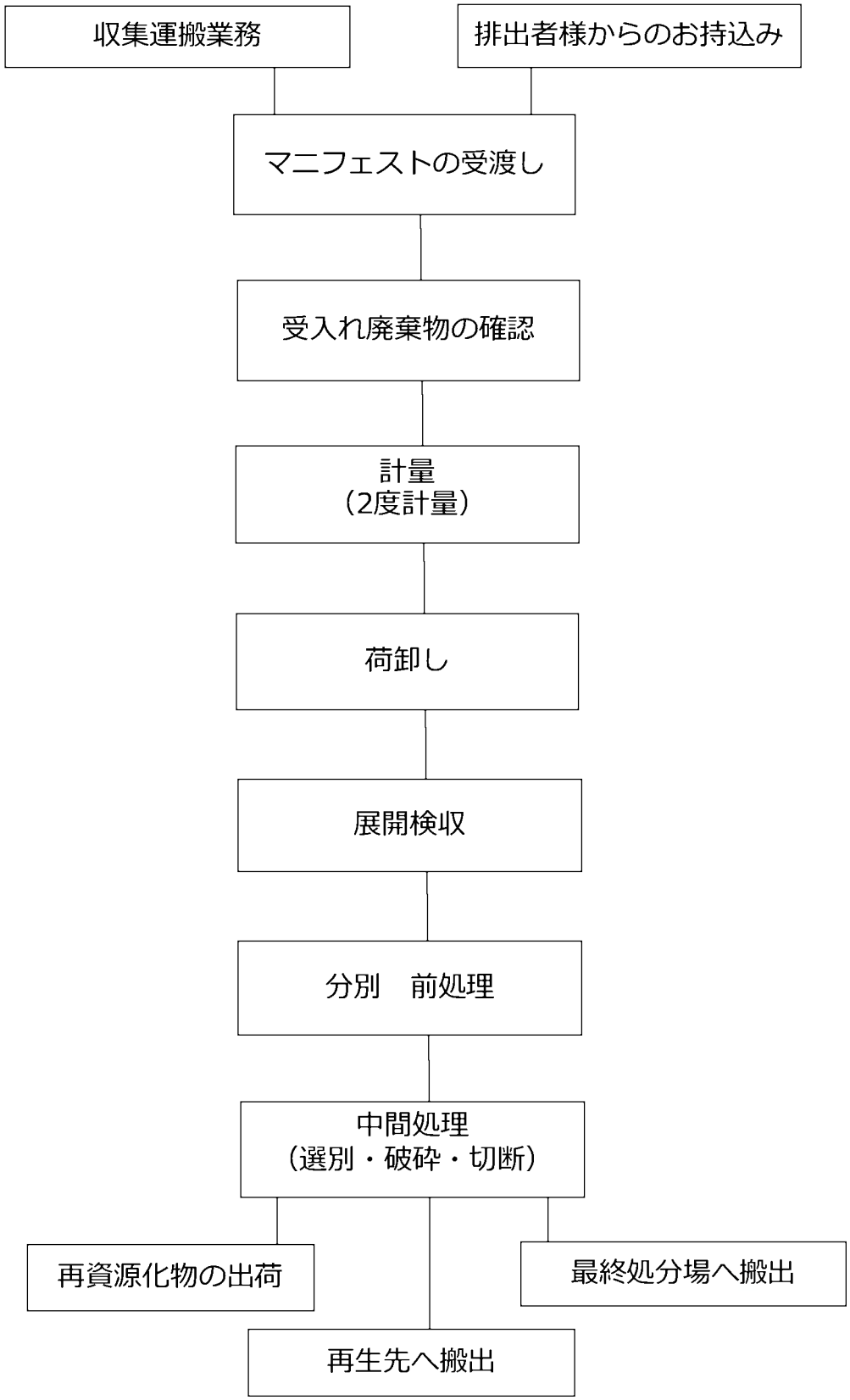
■一般廃棄物収集運搬用車両

車　種	仕　様	台　数
2t パッカー車	塵芥車	2
2t アルミパワーゲートバン	容量18㎥	1
2t アルミバン	容量17㎥	1
1.5t 幌車	容量10㎥	1

■産業廃棄物　中間処理施設

施設の種類	処理方式	処理する廃棄物の種類	能力
破砕施設 パワーマイザー	破砕	木くず	80.0t/日
破砕施設 ロータリープレスクラッシャー	破砕	廃プラスチック類	12.1t/日
		繊維くず	12.2t/日
選別施設 振動ふるい機 手選別ライン	選別	廃プラスチック類	161.9t/日
		紙くず	121.4t/日
		木くず	161.9t/日
		繊維くず	97.0t/日
		金属くず	914.8t/日
		がれき類	1,198.2t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	809.6t/日
片刃カッター （重機アタッチメント式）	切断	廃プラスチック類	41.6t/日
		紙くず	36.0t/日
		木くず	168.0t/日
		繊維くず	14.4t/日
		金属くず	49.6t/日
		がれき類	134.4t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	120.0t/日
両刃カッター （重機アタッチメント式）	切断	廃プラスチック類	93.6t/日
		紙くず	80.0t/日
		木くず	132.0t/日
		繊維くず	32.0t/日
		金属くず	33.6t/日
		がれき類	117.6t/日
		ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	91.2t/日
破砕機 パワーチッパー	破砕	廃プラスチック類	1.178t/日
		木くず	4.06t/日
		ゴムくず	1.751t/日
破砕機 （重機アタッチメント式）	破砕	ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず	2.592t/日
		がれき類	4.872t/日

■処理工程図


収集運搬業務
排出者様からのお持込み
マニフェストの受渡し
受入れ廃棄物の確認
計量
（2度計量）
荷卸し
展開検収
分別　前処理
中間処理
（選別・破砕・切断）
再資源化物の出荷
最終処分場へ搬出
再生先へ搬出

（１２）廃棄物の処理実績

【運搬実績】　2022年度（2022年 5月～2023年 4月）

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量（t）
■産業廃棄物運搬量 **12,274t**	木くず	（受託）産業廃棄物運搬	2,569
	廃プラ	（受託）産業廃棄物運搬	1,071
	紙くず	（受託）産業廃棄物運搬	219
	ガラス・陶磁器くず	（受託）産業廃棄物運搬	919
	がれき類	（受託）産業廃棄物運搬	1,333
	金属くず	（受託）産業廃棄物運搬	62
	混合廃棄物	（受託）産業廃棄物運搬	1,289
	廃油・汚泥 石綿含有廃棄物・水銀含有廃棄物	（受託）産業廃棄物運搬	269
	その他	（自社発生分）産業廃棄物運搬	29
	廃プラ	（中間処理後）産業廃棄物運搬	1,951
	ガラス・陶磁器くず	（中間処理後）産業廃棄物運搬	1,055
	がれき類	（中間処理後）産業廃棄物運搬	1,508
		合計	**12,274**
■中間処理後　有価物運搬量 **544t**	金属くず（製鉄原料）	（中間処理後）有価物運搬	130
	紙くず（製紙原料）	（中間処理後）有価物運搬	0
	木質原燃料チップ	（中間処理後）有価物運搬	414
		合計	**544**
■一般廃棄物の収集運搬量	事業系一般廃棄物	一般廃棄物運搬	360
360t		**合計**	**360**

【処分実績】　2022年度（2022年 5月～2023年 4月）

■一般廃棄物（木くず）の処分量	一般廃棄物（木くず）	破砕	815
815t		**合計**	**815**

■産業廃棄物の中間処理量 **17,912t**		ガラス・陶磁器くず	選別・切断	78
		がれき類	選別・破砕・切断	1,195
		混合廃棄物	選別・破砕・切断	1,289
	再資源化等 15,350t	木くず	破砕	12,242
		廃プラ類	選別・破砕・切断	1,740
		紙くず	選別・切断	189
		ガラス・陶磁器くず	選別・切断	875
		がれき類	選別・切断	265
		金属くず	選別・切断	39
			再資源化等量小計	15,350
			合計	**17,912**

■中間処理後の廃棄物 ２次ﾏﾆﾌｪｽﾄ **4,746t**	（委託） 最終処分 1,175t	廃プラ類	焼却後・管理型埋立	203
		ガラス陶磁器くず	管理型埋立	319
		がれき類	管理型埋立	653
	（委託） 再資源化等 3,571t	廃プラ類	固形燃料化	119
		廃プラ類	セメント原料化	51
		廃プラ類	溶融ガス化	1,675
		ガラス・陶磁器くず	製品原料として再利用	736
		ガラス・陶磁器くず	路盤材として再利用	93
		がれき類	セメント原料化	636
		がれき類	路盤材として再利用	261
			再資源化等量小計	3,571
			合計	**4,746**

■中間処理後の有価物 **15,184t**	木くず	木質原料・燃料として売却	14,597
	紙くず	製紙原料として売却	303
	金属くず	選別し製鉄原料として売却	284
		合計	**15,184**

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名　マテリアルバンク株式会社
対象事業所　本社
GREEN BASE（中間処理場）
岡山積替保管場所
倉敷積替保管場所
活動：　産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業
一般廃棄物の処分業（中間処理）、一般廃棄物の収集運搬業、再資源化物販売、古物商

□主な環境負荷の実績

項　目	単位	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	673,070	691,536	681,110	710,324	710,776	617,226	581,430
電力使用量	kWh	185,038	189,974	201,903	204,604	228,420	208,447	195,774
ガソリン使用量	L	14,611	17,477	13,783	13,947	13,956	13,091	13,298
軽油使用量	L	205,472	208,957	205,798	216,229	211,492	180,721	169,505
一般廃棄物排出量（自社分のみ）	t	1.6	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6
産業廃棄物排出量	t	4,775	4,832	4,989	5,234	4,793	4,456	3,644
化学物質使用量	t	0	0	0	0	0	0	0
総排水量	㎥	3,558	3,884	3,573	3,525	3,389	3,000	3,169

□環境経営目標及びその実績

（１）中長期目標値

年　度		2014年度 基準値		2022年度 目標値	2023年度 目標値	2024年度 目標値
Ⅰ．二酸化炭素排出量削減	kg-CO_2/ t	**26.36**	➡	**24.25**	23.99	23.73
（総二酸化炭素排出量kg-CO2÷総取扱量ｔ）	対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
●電力の使用量削減	kWh/ t	**12.68**	➡	**11.67**	11.54	11.41
（総電力使用量ｋｗｈ÷中間処理量ｔ）	対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
●営業車ガソリン使用量削減	L / t	**1.042**	➡	**0.959**	0.948	0.938
（ガソリン使用量Ｌ÷営業取扱量ｔ）	対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
Ⅱ．廃棄物排出量の削減	kg	**600**	➡	**552**	546	540
●事務所から排出される一般廃棄物の削減	対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
●受入廃棄物のリサイクル率の向上	リサイクル率	**86.8**	➡	**90.3**	90.7	91.1
（処理後再資源化量ｔ÷中間処理量ｔ）	対基準（%）	**基準値**		**+4.0%**	+4.5%	+5.0%
Ⅲ．水使用量の削減	㎥/ t	**0.173**	➡	**0.159**	0.157	0.156
（総水使用量㎥÷中間処理量ｔ）	対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
Ⅳ．グリーン購入	購入比率（%）	**41.0%**	➡	**43.5%**	43.9%	44.3%
●事務用品等のグリーン購入						
●カーボンオフセットへの取組	対基準（%）	**基準値**		**+6.0%**	+7.0%	+8.0%
Ⅴ．収集運搬業務における環境配慮						
●エコドライブ実践と効率の良い収集運搬による軽油の使用量削減	t・km/L^2	**0.482**	➡	**0.521**	0.525	0.530
（走行燃費ｋm/Ｌ×積載燃費ｔ/Ｌ）	対基準（%）	**基準値**		**+8.0%**	+9.0%	+10.0%
Ⅵ．中間処理場における環境配慮						
●廃棄物中間処理作業における軽油使用量削減	L/ t	**6.89**	➡	**6.34**	6.27	6.20
（処分場の軽油使用量Ｌ÷中間処理量ｔ）	2014年度対基準（%）	**基準値**		**-8%**	-9%	-10%
Ⅶ．周辺環境に配慮した作業	件/年	**0**	➡	**0**	0	0
●周辺地域からのクレーム件数　ゼロ継続	ゼロ継続	**クレーム件数**		**ゼロ継続**	ゼロ継続	ゼロ継続
Ⅷ．地域貢献活動	件/年	**13**	➡	**13**	13	13
●活動件数　13件/年　以上	13件/年以上	**基準値**		**13件/年以上**	13件/年以上	13件/年以上

※電力による二酸化炭素排出量は、中国電力（株）の令和３年度の二酸化炭素調整後排出係数メニューＧ（残差）0.540 kg-CO2/kWhを用いて算
※（Ⅰ-②）電力の使用量削減及び（Ⅲ）水使用量の削減については、全社消費量の大部分が廃棄物中間処理で消費されている。

（２）取り組み期間中の実績値　　2022年度（2022年5月～2023年4月）

年度		2014年度 基準値		2022年度 目標値	2022年度 実績値	目標値に対する達成度	評価
Ⅰ．二酸化炭素排出量削減	kg-CO_2/ t	26.36	➡	**24.25**	**19.84**	+22.2%	○
D(総二酸化炭素排出量kg-CO2)÷A(総取扱量ｔ)	対基準（%）	基準値		**-8%**	-25%		
●電力の使用量削減	kWh/ t	12.68	➡	**11.67**	**8.92**	+30.8%	○
E(総電力使用量ｋｗｈ)÷B(中間処理量ｔ)	対基準（%）	基準値		**-8%**	-30%		
●営業車ガソリン使用量削減	L / t	1.042	➡	**0.959**	**0.692**	+38.5%	○
G(ガソリン使用量Ｌ)÷C(営業取扱量ｔ)	対基準（%）	基準値		**-8%**	-34%		
Ⅱ．廃棄物排出量の削減	kg	600	➡	**552**	**417**	+32.4%	○
●事務所から排出される一般廃棄物の削減	対基準（%）	基準値		**-8%**	-31%		
●受入廃棄物のリサイクル率の向上	リサイクル率	86.8	➡	**90.3**	**94.3**	+4.5%	○
F(処理後再資源化量ｔ)÷B(中間処理量ｔ)	対基準（%）	基準値		**+4.0%**	+8.6%		
Ⅲ．水使用量の削減	㎥/ t	0.173	➡	**0.159**	**0.172**	-7.5%	×
H(総水使用量㎥)÷B(中間処理量ｔ)	対基準（%）	基準値		**-8%**	-1%		
Ⅳ．グリーン購入 ●事務用品等のグリーン購入 ●カーボンオフセットへの取組	購入比率（%）	41.0%	➡	**43.1%**	**48.1%**	+11.7%	○
	対基準（%）	基準値		**+5.0%**	+17.3%		
Ⅴ．収集運搬業務における環境配慮 ●エコドライブ実践と効率の良い収集運搬による軽油の使用量削減	t・km/L^2	0.482	➡	**0.521**	**0.710**	+36.4%	○
I(走行燃費ｋｍ/Ｌ)×J(積載燃費ｔ/Ｌ)	対基準（%）	基準値		**+8.0%**	+47.3%		
Ⅵ．中間処理場における環境配慮 ●廃棄物中間処理作業における軽油使用量削減	L/ t	6.89	➡	**6.34**	**5.03**	+26.0%	○
K(処分場の軽油使用量Ｌ)÷B(中間処理量ｔ)	2014年度対基準（%）	基準値		**-8%**	-27%		
Ⅶ．周辺環境に配慮した作業 ●周辺地域からのクレーム件数　ゼロ継続	件/年	0	➡	**0**	**0**	0.0%	○
	ゼロ継続	クレーム件数		**ゼロ継続**	ゼロ継続		
Ⅷ．地域貢献活動 ●活動件数　13件/年　以上	件/年	13	➡	**13**	**22**	+69.2%	○
	13件/年以上	基準値		**13件/年以上**	+69.2%		

注）評価欄　　○：達成　、△：やや未達成　、×：未達成

※電力による二酸化炭素排出量は、中国電力（株）の令和３年度の二酸化炭素調整後排出係数メニューＧ（残差）0.540 kg-CO2/kWhを用いて算出

※（Ⅰ-②）電力の使用量削減及び（Ⅲ）水使用量の削減については、全社消費量の大部分が廃棄物中間処理で消費されている。

	★実績値と基準値の根拠となる算出数値	2022年度	2014年度（基準年）
	①産業廃棄物の中間処理量	19,928t	12,892t
	②一般廃棄物（木くず）の処分量	815t	552t
	③収集運搬取扱量（④を含む）	13,178t	7,270t
	④処理受託した一般廃棄物取扱量	360t	193t
A	総取扱量（①＋②＋③）	33,921t	20,714t
B	中間処理量（①＋②）	20,743t	13,444t
C	営業取扱量（①＋②＋④）	21,103t	13,637t
D	総二酸化炭素排出量	673,070kg-CO2/ t	546,054kg-CO2/ t
E	総電気使用量	185,038kwh	170,361kwh
F	処理後再資源化量	19,570t	11,671t
G	ガソリン使用量	14,611L	14,207L
H	水使用量	3,558㎥	2,325㎥
I	走行燃費	5.444km/L	4.503km/L
J	積載燃費	0.130 t /L	0.104 t /L
K	処分場の軽油使用量	104,383L	92,611L

□環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた　○まあまあできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減		**○（目標値を達成）**
＊下記の各項による		目標値達成。年始頃より取扱量の減少傾向が見受けられる。燃料費が高止まりなどの懸念材料もあるが、皆が高い意識を持ってエコアクション２１の取り組みが出来たと大変評価できる。（次年度）燃料費も含め様々な物価が高騰しており、その状況をチャンスと捉えて更なる省エネに取り組んでいく事。新年より本格的に働き方改革も実践しており、各部門においても計画性をもって取り組んでいかねばならない。
電力使用量の削減		**○（目標値を達成）**
使用をしていない休憩室などの空調は停止させる	◎	目標値達成。電気使用量の大部分を占める木材プラントでは、今期中は大きなトラブルもなく安定的に稼働させることが出来た。年始頃より木くずの受入れ量が減少傾向となっているが、電気代の高騰は収まりそうにはない。（次年度）電気代の高止まりが予測され、各破砕プラントのメンテナンス計画をこまめに見直し負荷の少ない稼働維持に注力する事。社内の節電行動を心掛ける。
電力不用時には、機械設備の配電盤からの不可遮断を行う	◎	
無駄のないプラント稼働を行う	◎	
プレハブ事務所の暑さ対策を工夫する。	×	
エアコン内部の清掃を行う（1回/2年程度）	◎	
省エネタイプの照明・事務機器への更新	△	
節電運動の継続	◎	
自動車（ガソリン燃料）による二酸化炭素排出量の削減		**○（目標値を達成）**
効率的なルートでの営業	○	目標値達成。期間中は交通事故もなく、取り組み数値にも安定性があり大変評価できる。（次年度）安全運転の高い意識をもって取り組む事に加え、燃料費高騰も意識し更なるエコドライブ運転を心掛ける。
エコドライブの実践	◎	
ゆとりを持った安全運転	◎	
車両の入替時期には環境対策車で検討する	◎	
一般廃棄物の削減（自社の事務所より排出されるもの）		**○（目標値を達成）**
印刷の際はプレビュー確認を行い、間違いの無いようにする	△	目標値達成。コロナ対策や情報漏洩防止策を徹底する事で少々逆行する形とはなったが、正しく取り組めたと評価できる。（次年度）情報漏洩の恐れのある文書の紙くずは、シュレッダー処理を削減し、溶解再生処理ルートに回す事。事務所ごみの巡回を欠かさず実施し、不要で不適切なごみを排出しないように監視していく。
社内資料は裏紙を使用する	△	
資料はFAXではなく、メール送信を心がける	○	
定期的に事務所内を巡回して廃棄物の確認と分別指導を行う	◎	
受入れ廃棄物のリサイクル率の向上		**○（目標値を達成）**
廃棄物の分選別作業による再資源化量の向上	◎	目標値達成。今期は新たな「建築廃材セメント板」の再資源化ルートでの処理量も安定し、高いリサイクル率を維持する事が出来た。（次年度）社会情勢も未だ不透明感が残る。製品納入先や廃棄物受入れ先などの情報収集には注力する事。新たに信頼できる再資源化ルートの開拓も必要となろう。
新たな再資源化ルートの開拓	○	
排出事業者（現場など）様へ異物の混入指導と分別徹底の依頼	◎	
受入廃棄物の基準等の見直し	○	
木くずの受入れ量を増やして再資源化率を上げる	△	
水道水使用量の削減		**×（目標値未達）**
節水の推進運動	◎	目標値未達。使用量の大部分が処分場での飛散防止と破砕プラント自動散水が占める。使用時のルール・点検なども遵守されており問題無しと判断。3月頃より処分場での水圧減少が確認され水道局へ問合せたところ、局の上流部減圧弁設定の圧力が高すぎたことが判明。処理作業には問題ない事を確認した。（次年度）水道減圧がされた為、使用量の改善が見込まれる。漏水・就業点検の実施、節水運動の継続、散水ルールの徹底を行う。
処分場での散水方法のルール遵守	◎	
水道配管、ホース先端からの漏水点検	○	
散水栓を長時間使用しない時は元栓から確実に閉じる	○	
自動散水など節水機器の導入	×	
グリーン購入		**○（目標値を達成）**
グリーン購入表に従って確実に実施する	○	目標値達成。日々の地道な取り組みが実行出来たと評価できる。（次年度）取り決めしている対象商品を軸に、商品情報のこまめなチェックを欠かさず行う事。
新しい商品の情報を細目にチェックする	△	
グリーン購入の推進運動	△	
収集運搬・中間処理業務における環境配慮		**○（それぞれ目標値を達成）**
効率的なルートでの運行	○	**（収集運搬班）**目標値達成。本年より本格的な働き方改革も実施しているが、計画的で安全に配慮した配車業務が遂行されている。効率よりも安全第一の意識がエコドライブにもつながり結果を出せており大変評価できる。新しい運行管理システムも安全運行に良く活かされている。（次年度）積極的に働き方改革も実施し、計画的で安全に配慮した配車業務の継続。運行管理システムのデータを活用して、個別に的確な運行指導に注力する。
配車システム導入の検討	×	
エコドライブの実践	◎	
収集運搬業務の技術指導強化	△	
運行管理の徹底	◎	
重機のエコ操作・作業	○	
重機の点検整備と日常点検の実施	◎	**（中間処理班）**目標値達成。期を通じて安定した作業環境が保たれた。取り組み後半は廃棄物受入れ量が減少傾向で、作業的な負荷はさらに減少しているが、燃料費が高止まりしている。（次年度）来期11月に重機を1台、新車へ代替予定。環境対策仕様なので微力だが更なるCO2抑制にも貢献できよう。燃料費高騰は長期的な課題として捉え、更に無駄のない処理作業に注力が必要。
受入量と出荷量のバランスを考えた処理計画の実施	◎	
排出事業者（現場など）様へ受入れ基準の丁寧な説明	○	
安全で効率の良い作業改善とルール化	△	
稼働時間が多くなった重機は、新車への代替えを行う	○	
周辺環境に配慮した作業		**○（クレームゼロを達成）**
排水口の清掃点検と排水処理施設の定期的な清掃	◎	クレームゼロを達成。社内SNSなども上手く活用して素早い情報共有と対応、ホウレンソウを実行出来た。（次年度）取引先での遵守事項の再確認と社内での情報共有の徹底。些細な出来事でもホウレンソウを徹底させる。搬入業者様へは「搬入時のお願い」を配布し、根気よく指導と周知を実施する。
排水処理施設からの放流水の水質検査（年１回）	◎	
散水を行い処理工程で発生する粉塵防止	◎	
処理場場外への廃棄物の飛散防止対策（飛散塀や飛散ネット）	○	
強風時には作業を中断する	○	
搬路にあたる道路の安全確認（随時）	○	
社員教育	○	
収集運搬現場での遵守徹底と情報共有	◎	
搬入業者様へ安全な積荷のお願い	△	
地域貢献活動		**○（目標を達成）**
少人数でも工夫して活動継続の努力	◎	計画通り活動を実行して目標を達成する事が出来た。（次年度）地域の為に確実に活動を実施する事。地域より色々な要請があれば積極的に取り組んでいく。
周辺地域の清掃活動　（毎月1回以上）	○	
地域主催のイベントに参加　（毎年1回以上）	○	
いつでもどこでも誰にでも気持ちの良いあいさつを行う	◎	

□環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき要求事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物と産業廃棄物の収集運搬および処分業許可の取得（確認） 産業廃棄物収集運搬時の表示、書類携行 産業廃棄物の積み替え・処分のための保管に係る掲示 産業廃棄物の保管期間と基準 管理票の交付と保管 運搬受託業者としての管理票交付者への送付期限 処分受託業者としての管理票交付者への送付期限 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 産業廃棄物処理実績報告書 処理困難時の通知 処理困難通知受け時の措置及び報告書提出 産業廃棄物処理責任者の設置(2023/4/15 確認) 技術管理者の設置(2023/4/15 確認) 産業廃棄物処理施設の設置許可(2023/4/15 確認)	遵守
消防法（指定可燃物）	指定可燃物の取り扱いに関する基準の遵守 火災の発生の恐れのある設備の設置に関する基準の遵守 消火器の設置と維持	遵守
貨物自動車運送事業法	運行車両の日常点検と定期点検の実施 運転者適性診断の実施 貨物運送事業の実績報告書	遵守
電気事業法	電気設備技術基準の維持 保安規程の制定、届出、遵守 電気主任技術者の選任と届出 報告書の提出	遵守
計量法	特定計量器の定期検査	遵守
振動規制法	特定施設設置届出(2023/4/15 確認)	遵守
騒音規制法	特定施設設置届出(2023/4/15 確認)	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品（エアコン仕様の建設重機）の簡易点検と記録の保管 業務用エアコン・冷凍冷蔵庫機器を廃棄する際にフロン回収義務（証明書の保管） （2023/4/15　確認）	遵守
浄化槽法	浄化槽の保守点検・清掃・検査	遵守
自動車NO_X・PM法	排気ガス規制に適合した自動車の使用（車種規制）	遵守
特定家庭用機器再商品化法	受託を行った家電4品目及び自社使用済み家電4品目の廃棄	遵守
労働安全衛生法	フォークリフトの定期自主検査の実施 車両系建設機械の定期自主検査の実施 粉じん対策 騒音からの保護 健康診断の受診	遵守

2023年4月15日の環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去３年間ありません。

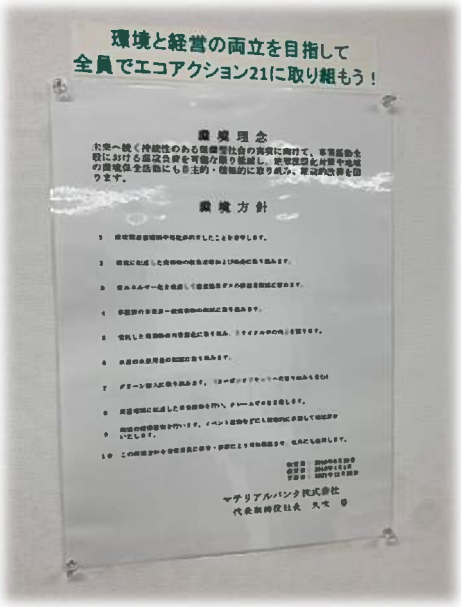
❐代表者による全体の評価と見直し・指示

■環境経営方針⇒見直し　要・否　■環境経営目標・計画⇒見直し　要・否　■実施体制⇒見直し　要・否

今期もコロナ禍で活動が制限された中での取り組みとなりましたが、工夫しながら一つひとつ丁寧に取り組めたと大変評価出来ると思います。今後も様々な課題をチャンスに変えるために「改善への提案」も着実に実行して下さい。その一つとして、燃料費の高止まりが喫緊の課題となりつつありますので、これを機会と捉えて全員が省エネ意識をさらに高くもって業務の遂行をお願い致します。来期はようやくコロナ社会も一服しつつあります。会議やミーティングなども増やして行きながらより活動的に、そして私たちマテリアルバンクの経営理念の一文にもあるように、循環型社会の発展に尽せるようにエコアクション２１に全員で一丸となり向き合って頑張っていきましょう。

作成：2023年7月3日　　改訂：2023年8月１日
代表取締役社長　矢吹 啓

❐環境目標取組み状況

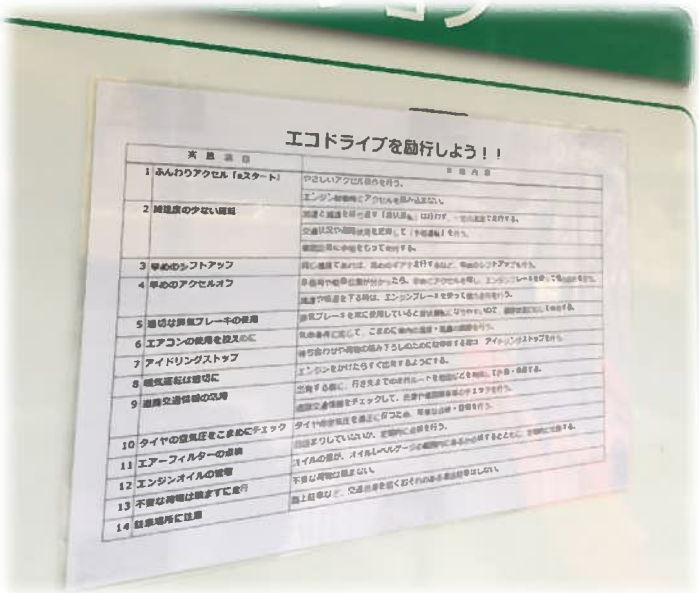


～環境理念・方針の掲示～

～紙くずの再資源化～

～コピー用紙の使用削減～

～節水運動～



～エコドライブへの実践取組み～

～CSR活動の紹介～

清掃活動

平成25年10月に当社の中間処理場を倉敷市粒江に移転し、
GREEN BASEとして営業を再開したのを機に、施設周辺の
環境美化や環境保全を目的に清掃活動を開始しました。
そしてさらに、地元の人々や命を育む自然などに対する感謝の気持ち
も胸にこの活動に取り組んでいこうということから、
平成27年5月には、清掃活動チーム「OKAGESAMA」を社内に結成
し、岡山の本社周辺や倉敷のGREEN BASEに隣接する
市道の沿線約3kmにわたる地域などを対象に、
それぞれ月に1回程度清掃活動を実施しています。
この活動を通して得られる様々な気づきや感動なども大事にしなが
ら"お陰様の精神"でこの取組みを続けていきます。

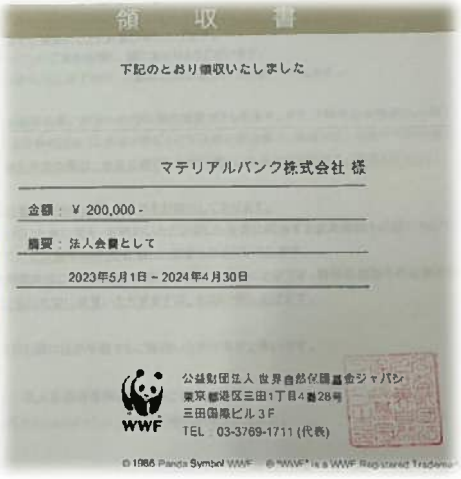
環境保全活動支援
(WWFジャパン法人会員)

WWFの4つの活動分野

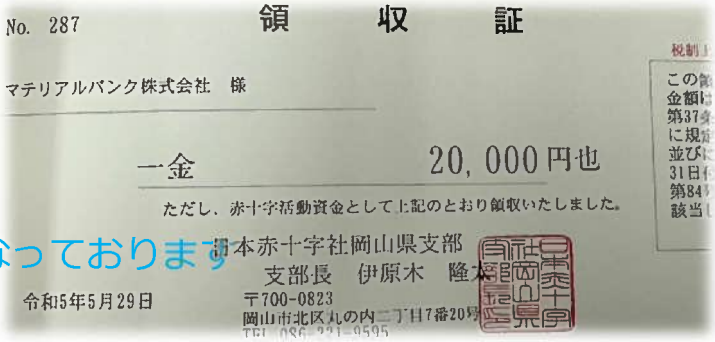
「人と自然が調和して生きられる未来を目指す。」

WWFは、世界100カ国以上で活動している地球環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来を築くことをめざして、地球上の生物多様性を守ることと、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷を小さくする事を柱に活動を展開しています。

マテリアルバンクは、その理念と活動に賛同し2015年よりWWFジャパンの法人会員としてWWFの環境保全活動を支援しています。



毎年日本赤十字社への寄付も行なっております



慈善活動（世界の子ども達へのワクチン支援）

©UNICEF/UN1183996/Bindra 提供：（公財）日本ユニセフ協会

当社では、平成２９年１月９日より、当社の役員及び従業員とその家族で構成される「マテリアルバンク共同支援会」によるペットボトルキャップ収集活動及び社内募金活動を実施しています。
矢吹社長の'命の絆宣言'で開始されたこの活動は、世界中で子どもの命と健康を守る活動をしているユニセフの支援ギフト事業への協力を通じて、開発途上国の子ども達へワクチンを届けることを目的としています。
「私たち一人ひとりのささやかな善意を集めることで、救える命があるのなら」という思いを皆で共有し、ペットボトルキャップを集め売却して得られた収益金と社内募金で集まった支援金とを合わせて、ワクチン支援に限定した形の寄付を行っています。

令和5年5月15日
マテリアルバンク共同支援会
代表　矢吹　啓

マテリアルバンク共同支援会活動報告
（Ｒ４年度）

■活動期間　　令和４年５月１日～令和５年４月３０日

■活動内容　　募金活動及びペットボトルキャップ収集活動
※集めたペットボトルキャップは、廃プラの買取り業者に売却し現金化

■活動目的　　ユニセフ（国連児童基金）を通じての世界の子ども達への
はしかワクチン支援
※はしかは、世界の幼い子どもたちが命を失う主な原因のひとつ

■Ｒ４年度活動結果

・募金総額
１２，０６１円　・・・①

・ペットボトルキャップ売却代金
１６ｋｇ（総重量）×１２．５円／ｋｇ単価＝**２００円**　・・・②

①＋②＝１２，２６１円（Ｒ４年度活動成果）

（参考）

総重量　＝　**約１６，０００ｇ（１６ｋｇ）**

総個数　＝　**約６，８９７個（１個あたりの重さを2.32ｇで計算）**

※ペットボトルキャップ売却単価

１２．５**円／ｋｇ**　（進徳貿易様ご協力単価）

■Ｒ４年度分支援内容

支援総額１５，０００円　　２０４回分のはしかワクチンを支援

※７３．３円／回

■収支報告

｛2,954円（R3年度繰越金）＋12,261円(R4年度収入）｝－15,000円(R4年度支出)
＝215円（R4年度繰越金）